

⑫ 公開特許公報(A)

昭63-152545

⑪ Int. Cl.⁴B 65 D 21/02
85/50

識別記号

庁内整理番号

F-6929-3E
A-6694-3E

⑬ 公開 昭和63年(1988)6月25日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑭ 発明の名称 カップ連結器

⑮ 特 願 昭61-293887

⑯ 出 願 昭61(1986)12月10日

⑰ 発 明 者 杉 澤 公 大阪府東大阪市御厨栄町1丁目5番7号 ハウス食品工業株式会社内

⑱ 発 明 者 茨 木 優 大阪府東大阪市御厨栄町1丁目5番7号 ハウス食品工業株式会社内

⑲ 発 明 者 今 田 今 義 大阪府東大阪市御厨栄町1丁目5番7号 ハウス食品工業株式会社内

⑳ 出 願 人 ハウス食品工業株式会社 大阪府東大阪市御厨栄町1丁目5番7号

㉑ 代 理 人 弁理士 中 村 稔 外5名
最終頁に続く

明 細 書

1. 発明の名称 カップ連結器

2. 特許請求の範囲

(1) 周囲部に下カップの上縁部を受け入れるための下カップ係合部を有し、内側部に上カップの側壁部と係合して該上カップを受け入れるための上方に向かって拡大するように傾斜した係合壁面を有する上カップ係合部を有し、上記下カップ係合部と上カップ係合部との間にストローを挿入するためのストロー挿入部を設けたことを特徴とするカップ連結器。

(2) カップ連結器が可撓性を有する材料によって形成されたことを特徴とする特許請求の範囲第(1)項記載のカップ連結器。

(3) 可撓性を有する材料が、ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリ塩化ビニル、ポリスチレン、熱可塑性エラストマー及びこれらの混合物からなる群から選ばれる一員である特許請求の範囲第(2)項記載のカップ連結器。

(4) 上カップ係合部の傾斜壁面の傾斜角が 82°

～ 85° である特許請求の範囲第(2)項又は第(3)項記載のカップ連結器。

(5) 上カップ係合部の傾斜壁面の高さが 10mm ～ 50mm である特許請求の範囲第(4)項記載のカップ連結器。

(6) 上カップ係合部の上方開放部の内径が下カップの上方開放部の内径に対して占める割合が、 70% ～ 88% である特許請求の範囲第(1)項～第(4)項の何れか1項記載のカップ連結器。

(7) 上カップ係合部の傾斜壁面に縦方向の髪又は切れ線を設けた特許請求の範囲第(2)項記載のカップ連結器。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、食品を入れた上カップ及び飲料を入れた下カップを一体的に連結し、その状態で食品及び飲料を飲食できるようにするためのカップ連結器に関する。

(従来の技術)

従来、ファーストフード店等に於いて使用される容器であって、焼きそば等の食品の入った容器と飲料容器とを一体的に組合せることが可能で、しかもその状態で食品及び飲料を飲食できる立食に適した容器が実開昭55-61505号公報で提案されている。上記公報に開示された容器は、カップ状の飲料容器の上部にストロー孔を有した皿状容器を嵌入して構成される。

ところで、ファーストフード店等に於いては、食品等を容器に入れる操作が容易であることから簡単な構造のカップ状容器(以下カップと称する)が多く用いられ、これらに食品及び飲料を収納して販売することが行われている。しかしながら、

食品容器と飲料容器とを一体的に組合せることが可能で、食品及び飲料を飲食できる容器として現在までに知られている容器は、前記公報に開示された容器のような特殊な構造の容器、すなわち、上部皿状容器が特殊な構造であるものに限られる。つまり、食品及び飲料を収納した通常のカップを組合せ、その状態で食品及び飲料を飲食できるようにすること及びそのための手段については全く知られていない。

(発明が解決しようとする問題点)

本発明は、上記事情に鑑み、食品及び飲料の入られたカップを一体的に連結し、その状態で食品及び飲料を飲食できるようにするためのカップ連結器を提供することを目的とする。

(発明の構成)

本発明に係るカップ連結器の構成上の特徴とするところは、周囲部に下カップの上縁部を受け入れるための下カップ係合部を有し、内側部に上カップの側壁部と係合して該上カップを受け入れるための上方に向って拡大するように傾斜した係合

壁面を有する上カップ係合部を有し、上記下カップ係合部と上カップ係合部との間にストローを挿入するためのストロー挿入部を設けたことである。

(実施例)

以下、本発明の実施例を図に基づいて説明する。

第1実施例のカップ連結器1は、第1a図及び第1b図に示すように、ほぼドーナツ状の平面部2と、下カップ4の上端部と係合するために平面部2の外周部に設けられた下カップ係合部すなわち下向きの円筒形突出部6と、上カップ8の下方部と係合するために平面部2の内周部に設けられた下向きの上カップ係合部すなわち波形壁面よりなる先細形突出部10とからなる。平面部2には、ストロー12を差込むストロー挿入部14が設けられている。ストロー挿入部14は、例えば第2図及び第3図に示すように、星形の切込みにより形成され、ストロー12をここに差込むことにより切込みによって形成された複数の突出部が下方へ折曲げられる。ストロー挿入部14の構成は、上記のものに限定されず、単なる孔、破断可能な

肉薄部等とすることもできる。また、平面部2に設けられるストロー挿入部14の数は任意である。

円筒形突出部6の内側の面には、下カップ4の上端部、即ちフランジ15との間の係合をより強固にするための手段として突部16等を設けることができる。また、先細形突出部10の下端部は、図示のように解放されていてもよいし或いは閉鎖されていてもよい。

ところで、カップ連結器1は可撓性を有する材料、例えば、ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリ塩化ビニル、ポリスチレン、熱可塑性エラストマー、及びこれらの混合物等から形成されることが好ましい。また、先細形突出部10は、高さが10mm～50mmで、傾斜角が82°～85°であるように形成されることが望ましく、この場合は、一般に広く使用されているいずれのカップについても一定の強さをもって係合可能である。さらに、平面部2において、先細形突出部10の上方開放部の直径17は下カップ4の上方解放部の内径18の70%～88%に形成されることが望まし

く、この場合は、上カップ8と下カップ4との安定した相対的位置関係を実現し、かつストロー挿入部14を適所に設けることを可能にする。

上述の構成のカップ連結器1は、まず、ジュース等の飲料を入れた下カップ4の上に蓋をするようにして係合させられる。続いて、ポップコーン等の食物を入れた上カップ8の下方部を先細形突出部10に係合し、この時上カップ8の底部は先細形突出部10波形壁面を押広げながら嵌入し、先細形突出部10の中間部で止まる。一方、ストロー12をストロー挿入部14に押し込み、ストロー12の先端部を下カップ4の底部近くまで届くようにする。

しかし、カップ連結器1の上述の使用法は単なる例示であって、これ以外の多くの順序により使用可能であることは当業者が容易に推定可能なことである。

本発明の第2実施例及び第3実施例は、第2図及び第3図に示すものである。第2実施例及び第3実施例とも、平面部2及び円筒形突出部6の構

成は第1実施例と同じであり、図面に同一の符号を付してその説明を省略する。第2実施例及び第3実施例の先細形突出部20、30は、波形でない単なる円錐形の一部であり、第2実施例の先細形突出部20には下端部に下方へ延びた複数の切線22が設けられ、第3実施例の先細形突出部30には中間部に上下方向に延びた複数の切線32が設けられている。尚、先細形突出部は、上記の如き切れ線が設けられず、単なる円錐形の一部として設けることもできる。

(発明の効果)

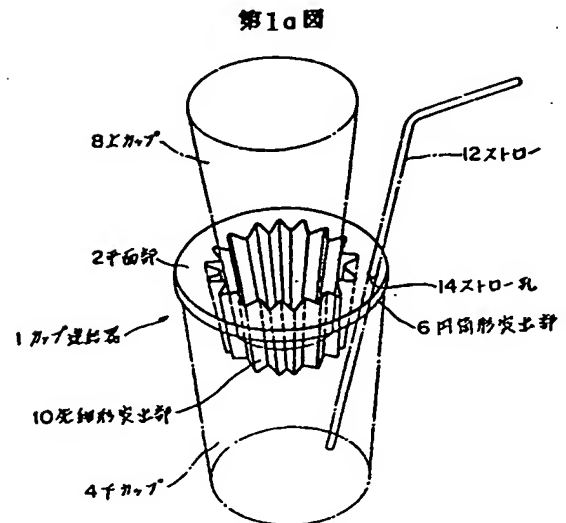
本発明のカップ連結器によれば、飲料の入れられたカップの上部に、食品又は飲料の入れられたカップを安定に連結することができる。つまり、周囲部の下カップ係合部によって下カップの上縁部を受け入れ、また内側部の上カップ係合部の傾斜した係合壁面によって、上カップの下部の側壁部を受け入れ、上カップが下カップの内部の下方にまで入り込まない状態で確実に固定することができる。

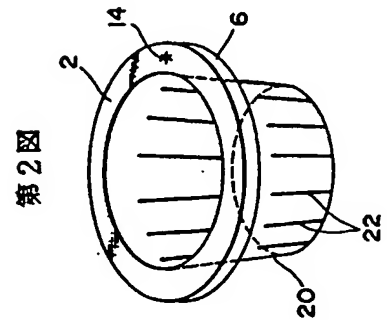
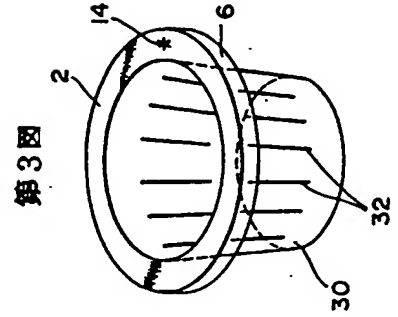
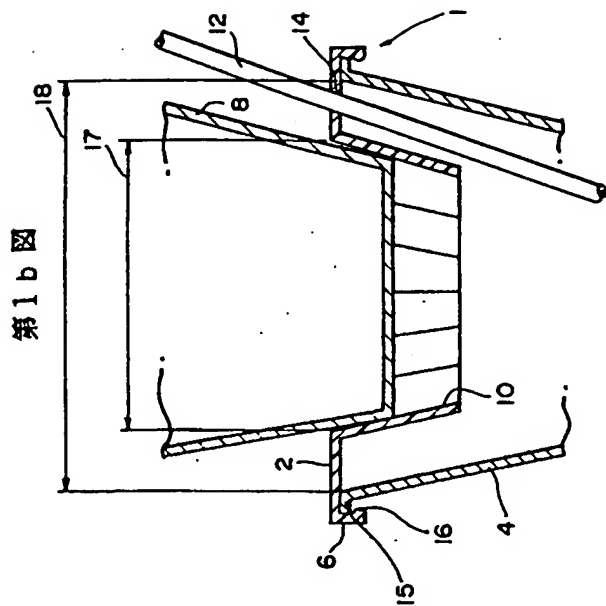
また、下カップ係合部と上カップ係合部との間にストロー挿入部が設けられ、該ストロー挿入部にストローを挿入して、上記のように上カップ及び下カップを連結した状態で下カップに入れられた飲料を飲むことができる。

4. 図面の簡単な説明

第1a図は本発明のカップ連結器の第1実施例の斜視図、第1b図は第1a図に示すカップ連結器の部分断面図、第2図は第2実施例の斜視図、第3図は第3実施例の斜視図である。

- 1 …… カップ連結器、
- 2 …… 平面部、
- 4 …… 下カップ、
- 6 …… 円筒突出部、
- 8 …… 上カップ、
- 10、20、30 …… 先細形突出部、
- 14 …… ストロー孔、
- 15 …… フランジ、
- 16 …… 突部。





第1頁の続き

| | | | | |
|------|-----|----|--------------------|--------------|
| ⑦発明者 | 加守田 | 保 | 大阪府東大阪市御厨栄町1丁目5番7号 | ハウス食品工業株式会社内 |
| ⑦発明者 | 中野 | 満樹 | 大阪府東大阪市御厨栄町1丁目5番7号 | ハウス食品工業株式会社内 |

PAT-NO: JP363152545A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 63152545 A
TITLE: CUP CONNECTOR
PUBN-DATE: June 25, 1988

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

SUGISAWA AKIRA

SHIBUKI MASARU

IMADA IMAYOSHI

KAMOTA TAMOTSU

NAKANO MITSUKI

ASSIGNEE-INFORMATION:

US-CL-CURRENT: 206/217